



四国デイスカバリー

～高知県人のソウルフードをつくっている会社にお話を伺いました～

～愛され続けて、95年～

高知県で、「ビスケットといえばミレー！ミレーといえば、のむら！」と言うくらい有名なお菓子を作っている「有限会社野村煎豆加工店（以下、親しみを込めて「のむら」と表記させていただきます）」をご紹介します。当社は、大正12年に豆類の加工販売を行う野村商店として創業し、現在も豆菓子や甘納豆など昔から愛される商品の製造・販売を行っています。なかでも、ミレービスケットは、県内のみならず、全国でも知る人ぞ知る人気商品です。多くの人々から愛され、「のむら」を代表する商品となったミレービスケット。

その大ヒットの背景には、三度の浸水被害からの復興など、多大なご苦労があったとのこと…。

そこで、当時を知る野村有弘専務と戸田祐一常務に貴重なお話を伺いました。



名称 有限会社 野村煎豆加工店
所在地 高知県高知市大津乙 1910-3
設立 1952年（昭和27年）
（※）野村商店 創立 1923年（大正12年）
代表者 野村 純司
従業員 50名
資本金 10百万円
HP <http://www.nomura-net.co.jp>

●三度の自然災害を経験されたとのことですが、復旧への道のりについてお聞かせください。

現在の拠点となっている高知県食品工業団地は、高知港から近く、比較的低位に位置していることに加え、国分川（二級河川）に隣接していることから、過去三度の浸水被害に遭いました。1度目は昭和45年の台風10号上陸による床上1.5mの浸水。2度目は昭和47年の集中豪雨による国分川の決壊により、当社屋を含めこの辺り一帯が浸水したんですよ。

3度目は平成10年の集中豪雨により国分川が決壊し、2m浸水したことから、事務所、工場共、甚大な被害を受け、機能が全て停止してしまいました。ゼロからの工場再開は、もう難しいのではないかと諦めかけていたのですが、社員だけでなく食品工業団地の企業全体が一致団結することで、復旧に向けた機運が高まりました。また、行政からの支援もあって、被災から約2週間後に製造作業を再開できるようになり、1ヶ月後にはほぼ平常どおりの業務再開にまで漕ぎつけることができました。

あの時は自然の力の強大さを痛感しましたが、どんな状況に置かれたとしても、悲観することなく、社員たちと共に前に進み続けたことで今があるのだと思います。今後、「南海トラフ巨大地震」が起こったとしても、この社員たちがいれば必ず乗り越えることができると信じています。



有限会社野村煎豆加工店
野村 有弘 専務

●被災を通じて広がる支援や社会貢献活動の取組みについてお聞かせください。

集中豪雨などの被害に遭うたびに、私を含め当社も様々な方の支援や協力を頂いたので、困っている方がいれば、支援をしたいという気持ちを強く持つようになりました。

困ったとき、お互いに助け合うことは大切ですからね。そこで、東日本大震災のときは、被災地の方々の力になりたいという思いから、被災地へ向かう自衛隊にミレービスケットを託しました。被災された方々に物資提供を行った際、とても喜んでいただけたと自衛隊の方からお話を聞いたときは涙が出るほど嬉しかったですね。

また、社会貢献活動の取組みの一つとして、パッケージに「振り込め詐欺をミやぶレー」とプリントしたビスケットを販売しました。これは、犯罪抑止を担当していた当時の高知県警察生活安全部の婦人警官が考案したものです。増加傾向にある「特殊詐欺事件の被害防止」に役立てようという



被災地にも送られたミレービスケット。できたてです！

ことで、防犯標語を掲載した商品を提供することになり、売上の1%を高知県防犯協会に寄付し、地域の防犯活動に役立ててもらっています。また、現在は当社の配送トラックにも「振り込め詐欺をミやぶレー」と表記するなど、取組みは広がりを見せています。

このようなミレーを通じた特殊詐欺防止広報の効果もあって、平成27年の被害（未遂含む）件数は前年の約32パーセント減少したそうです。高知県で行っている特殊詐欺防止キャンペーンを四国四県でも実施しようということで、四国管区警察局の協力を得て、各県警のマスクをモチーフとした四国四県版の商品も販売しました。

●「高知県産業振興計画^(注1)」との関わりは？

私は高知県食品工業団地を代表し、産業振興計画の農業部会の創設メンバーの一員として、当初からこの計画に携わっていましたので、当社が本格的に地産外商を進めていくことになったときも不安は全く無かったですね。

平成19年に開催された「スーパーマーケット・トレードショー」に県や取引金融機関の後押しを受けて出品しました。この催しは、全国の流通業者が一堂に会する展示商談会であり、バイヤーの方々から高評価^(注2)を受けたことが、全国展開へのきっかけとなりました。

また、2010年東京・銀座にオープンした高知県のアンテナショップ「まるごと高知」は、ミレーだけではなく、高知県の特産品を知ってもらうための後押しとなっているように感じます。私も東京へ行ったときは必ず立ち寄って、朝礼に参加するほか、店員の皆さんと一緒に商品の陳列も行っているんですよ（笑）。今後もどんどん新しい商品を提案して、お客様に喜んでいただけるものを作り続けていきたいですね。

(注1) 高知県産業振興計画

平成21年度から取り組んでいる高知県産業の体質強化に向けたトータルプラン。官民が一丸となって行うもの。

「地産」「外商」「拡大再生産」にポイントを絞り、高知県下の産業の活性化、人材の確保を狙う。

(注2) 全商品の中から選りすぐりの商品のみ与えられる「フード30選」に選出された。

●「のむら」にとって、大切なことはなんですか？

まずは、「お客様から頂戴するご意見を大切にすること」です。お客様からのお叱りの声やお褒めの声などのご意見を無駄にせず、一つ一つ丁寧に應對させていただいています。そのやりとりの記録は大切に保管しており、幅 10 cm のファイル 3 冊分にもなりました。これらの声が、今の「のむら」を作りあげているのです。

次に、「一緒に働く仲間たちを大切にすること」です。うちの社員は、みんな中途採用者です。過去に躓き、挫折した経験があったとしても、再び立ち上がり、共に苦勞して頑張ることができる仲間を受け入れています。一生懸命働いて得られた成果は、きちんと社員に還元できるよう私自身も努力しています。

●野村専務の夢や目標を教えてください。

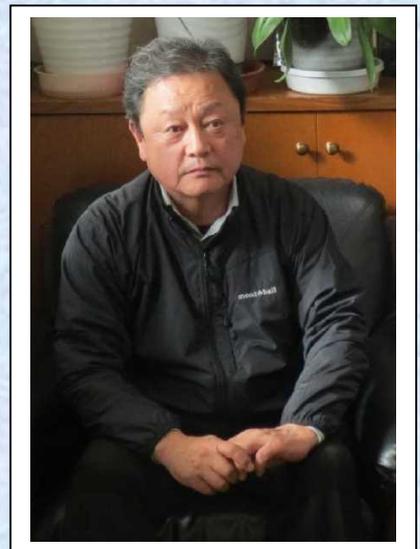
個人的な夢や目標はありませんね（笑）。私や社長の夢を叶えるためではなく、お客様や地域の人々に喜んでもらえることができれば一番です。例えば、地元企業の商品と当社のミレーとのコラボレーション商品を創ること、すなわち「ミレーで困う」ことで、お客様だけでなく地域の人々にも喜んでいただければと思っています。

○番外編○

のむらの「いごっそう（土佐弁で気骨がある者）」戸田常務にもお聞きしました！

浸水被害を受けた時は「一日でも早く工場を掃除して綺麗にしなければ！」という思いで、がむしゃらに頑張りました。復旧作業が少し落ち着いたころ、地場スーパーの担当者の方に「売り場を空けて待ちゆうき、一日でも早よ復旧してよ」と言っていたんです。また、お客様からも待ってこれているという声を聞いたときは、本当に嬉しかったですね。励ましの声が復旧への原動力になったことは間違いありません。被災したことによる絶望感というよりも、やるしかないという強い気持ちで復旧に取り組みました。実は、工場設備は、手をかけてメンテナンスしているので、被災当時の機械の中には未だに現役のものもあります。

うちの職場を一言で表すなら、「社員が元気で、とても温かみがある職場」でしょうか。ミレービスケットや豆菓子が広く認知されるようになってから、ますます忙しくなってきたのですが、野村



有限会社野村煎豆加工店

戸田 祐一 常務

専務をはじめパワフ

ルな社員が多く、皆で協力して商品の製造・販売に取り組んでいます。また、私たちのお菓子を心待ちにしてくださっているお客様が、多くいらっしゃることも仕事への励みになっていますね。

仕事も嫌々取り組むのではなく、前向きに楽しくやっていけることが大切です。当社は社員同士の距離が近く、アットホームな雰囲気楽しい職場だと思えます。でも、私の場合、前向きすぎて周りにブレーキをかけられることもしばしばあるんですよ（笑）。



被災当時から使われている機械

<取材後記>

今回は、三度の自然災害を乗り越えた結束力の強さと、地産外商に前向きに取り組む姿勢を中心に話を伺いました。「人」を大切にし、会社をけん引する野村専務の人柄をはじめ、社員のみなさんからは、気さくで明るく、とても前向きな感じを受けました。取材中に「不安、心配」といったネガティブな言葉が全く聞かれなかったことから、社員の方々の朗らかさを伺い知ることができました。

その一方で、「四度目の災害にあったとしても、必ず乗り越える」という言葉を聞いたとき、野村専務の覚悟や、社員の方々の結束力の強さに加え、何よりも地元高知への郷土愛を感じました。

「現状に満足することなく、新しいことに挑戦し続ける」といった熱い思いと、この会社全体を包む素晴らしい「こころもち」が、関連会社やお客様だけでなく地域の人々も「ミレーで困う」ような新商品やアイデアを次々と生み出す原動力となっているのではないのでしょうか。

(注) 原稿作成中に食べたミレーの数は…食べだすと止まらなくて…えーと、覚えてません…

(高知財務事務所 総務課 山下 佳志美、財務課 森池 佑紀)

掲載している情報は、平成30年1月時点のものです。
掲載している写真は、同社よりご提供いただきました。